

「介護・福祉職員のためのスキルアップ講座」の実践

○ 中国短期大学 松井 圭三 (2473)

藤田 了 (大阪国際大学・9058)、今井 慶宗 (関西女子短期大学・6951)

キーワード: スキルアップ、NIE、新聞

1. 研究目的

A県キャリア形成訪問指導事業の一環として「介護・福祉職員のためのスキルアップ講座」全3回の日程で実施した。本講座は、①図書館利用と文献について学ぼう!、②伝える力をアップ!情報収集のための新聞活用術、効率的な新聞の読み方、③「読みやすい文章とは～句読点、修飾語、助詞、接続詞～」など、新聞をはじめとする情報の活用や文章力向上を主眼とするものである。本研究はこの実践についてその意義と効果について検討するものである。

2. 研究の視点および方法

介護職員等に対するキャリア形成訪問指導事業で行われる内容として、新聞の活用、図書館利用、文章の作成方法に関するものは少ない。この講座の受講者に対してアンケート調査を行い、その効果を分析し今後の課題を明らかにする。

3. 倫理的配慮

講座の各回終了後のアンケートは、集計し匿名化し研究上使用することを示して回答を得ている。人名は出さず、地名もアルファベットにしている。一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程等にのっとり、研究を実施している。利益相反はない。発表内容について、共同研究者各人の同意を得ている。

4. 研究結果

参加人数は表の通りであった。各回にアンケート調査を行った。

	参加人数 (対面)	参加人数 (リモート)	アンケート回答
第1回	3	10～23	12
第2回	4	18～24	15
第3回	5	18～23	10

(単位・人)

それぞれの回についてアンケートにて意見・感想を求めたが、肯定的なもの・そうでな

いものがみられた。意見・感想の概要については次項「考察」を参照。

5. 考察

図書館の活用に関しては、今回の受講者が活用方法を理解し利用していこうとする気持ちになったことが分かる。従来は「新聞や図書館などほとんど活用出来ていなかった」、しかし「身近に使いやすく感じたので利用していこうと思う」「活用をもっとしていきたいという気持ちになった」「まで知らなかったこと、また便利な方法も知った」「横断検索システムは使い方が分かりにくかったので、実演がありよかった」とするものがある。

福祉現場においても文章力を向上させることは重要であるが、例えば第2回目の意見・感想の中で「福祉の現場では、相手の話を容易に理解すること、伝えたいことが伝えやすくすることは、人間関係を形成する上でも重要で大きな課題である」というものがあり、回数を重ねるとこの講座に対する意義を見出しているのではないかと考えられる。さらに第2回目は意見・感想の量が1回目より多くなっていることから理解の深まりが窺える。第2回目では新聞記事のスタイルである「逆三角形」についての感想が複数ある。逆三角形（見出し→リード→本文）が分かりやすく応用したい旨、また講座の中で用いた「新聞記事のスタイルが使える」の図が納得できたことである。施設等の業務で活用可能ではないかという感想もある。研修会の講師を務める際、あるいは・施設の広報誌の内容やレイアウトを考える際である。また、第2回目では、福祉の現場において「相手の話を容易に理解すること、伝えたいことが伝えやすくすること」が人間関係形成上で「重要で大きな課題」であるとして情報の授受における手法の大切さを述べているものがみられる。

第3回目の意見・感想でも今後の業務に役立てていこうとする意欲がみられるものがある。例えば「長文でダラダラ書くのではなく事実関係をもとに正確に事実を誤りなく書けるようがんばる」「結論ありきでなく、書く前の段階に時間を割くようにしたい」というものである。そして、この第3回ではテーマとしても「文章講座」「書く力」を前面に出しているため文章を書く力をどう伸ばしていくかということ考えた感想・意見が多く出されている。「文章を書くために大切な役立つことがある」「語彙力の無さを痛感した」「書く力＝考える力も鍛えたい」「今まで気づかなかった文章の書き方」などである。全3回を大学の教職員と新聞社社員が分担したことによる効果と考えられる点がある。即ち、第3回目の意見・感想の中には「専門家からの話はとても興味深かった」など、専門家である新聞社の社員から教えられることで、この回のテーマである「読みやすい文章とは」いかなるものか理解が深まっていると考えられる。

なお、直接、介護技術の習得を行おうとするものではない。そのため「内容が介護・福祉とは全く関係ないように思った」という意見・感想も出た。しかし、キャリア形成訪問指導事業は、直接に介護技術の習得に資するものにとどまらない。文章作成・情報収集も必要な能力の一つであり、今後ともこれら実践を行っていく意義は大きいと考える。